

A photograph of a classroom. In the background, a black chalkboard with a light-colored wooden frame is mounted on a wall. The chalkboard has the Japanese text '授業デザインマッパ' written on it in white. In front of the chalkboard, there are several small, light-colored wooden desks with white metal frames. To the right of the chalkboard, there is a small potted plant with green leaves in a wooden planter. The floor is made of dark wood.

授業 デザイン マッパ

「主体的・対話的で深い学びを実現するための
授業改善プロジェクト事業」 研究推進校の取組より

令和4年3月
島根県教育委員会

「授業デザインマップ」について

1. 「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」

島根県教育委員会では、令和元年度から令和3年度まで県内小中学校10校を研究推進校に指定し、協同学習（※）による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するための実践モデルの確立と、組織的に授業改善に取り組む体制を構築することを目的に「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」を実施してきました。

※協同学習

県教育委員会では、協同学習を、「児童生徒一人一人が、自分のもつ知識・技能を活用して答えを追究しつつ、他者の異なる視点や考えを学ぶことで、自分の考えをより質の高いものにしていく学び」と捉えています。

2. 「授業デザインマップ」とは

「授業デザインマップ」は、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」における推進校において、めざす授業の方向性を全教職員で共有し、取組を推進していくために作成されたものです。各校の取組の概要を見える化したものです。

3. 「授業デザインマップ」の活用方法

(1) 配付した各推進校の「授業デザインマップ」を参考に各学校の取組を考える。

各学校において授業改善を推進する際に本マップをご覧いただき、参考にいただければと考え配付しました。

(2) 各学校の実態にあわせてオリジナルの「授業デザインマップ」をつくる。

各学校の児童生徒の実態等に合わせた「授業デザインマップ」を作成し、全教職員で「めざす授業」と「具体的な取組」を共有し、チーム学校で授業改善を進めていくためのツールとして活用いただければと思います。

具体的には以下のように作成、活用することができます。

「授業デザインマップ」作成の手順

- ①児童生徒の「強み」と「課題」を学力調査等から分析する。
- ②めざす授業（授業における子どもの姿）を決定する。
- ③授業改善についての具体的な取組を決定する。
- ④職員室に掲示するなど、普段から教職員が意識できるような工夫をする。
- ⑤随時、職員会等で具体的な取組を実施した結果を共有し、取組をより良いものに改善する。具体的な取組についての疑問点を話し合うことで、取組についての理解がより深まり、全教職員をあげての取組となる。
- ⑥学力調査等の結果を受けて、マップの修正を随時行う。

※しまねの教育情報 Web「EIOS」に「授業デザインマップ様式」をアップロードしていますので、必要に応じて活用してください。

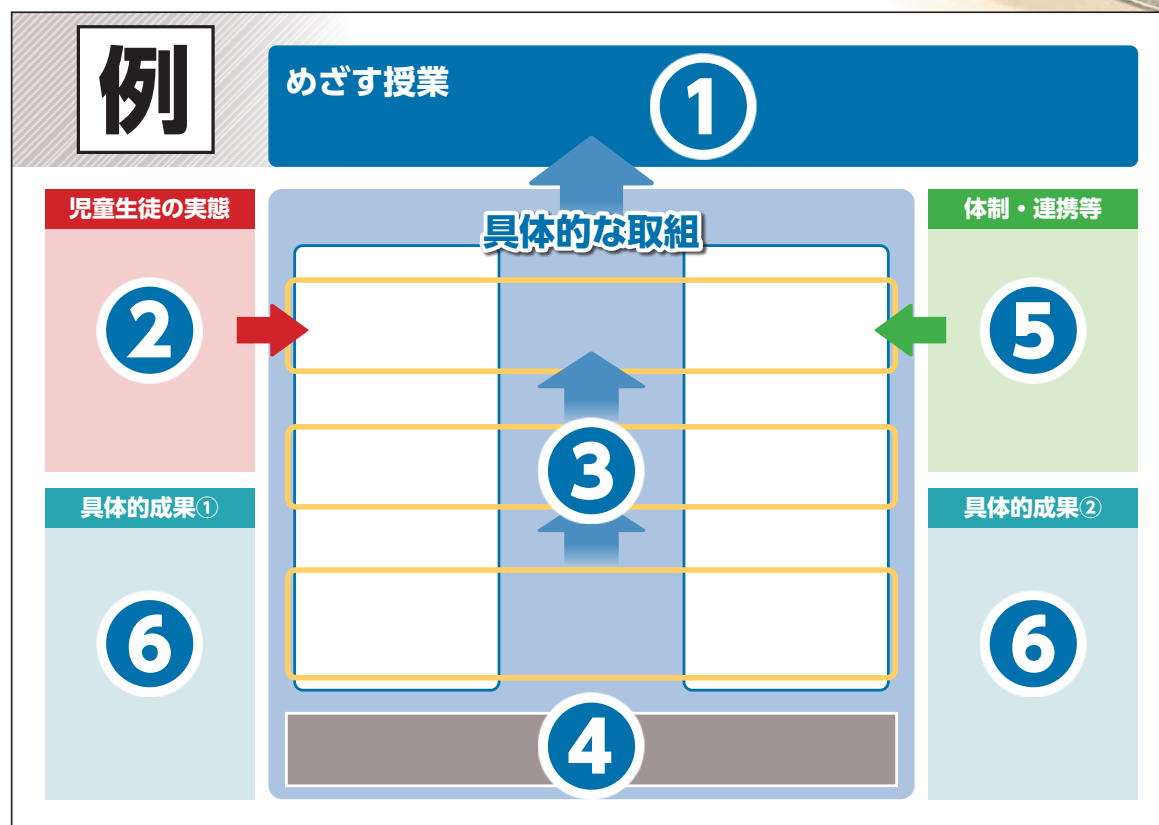
EIOS

検索

4. マップの見方

「授業デザインマップ」には、下記①～⑥の内容を記載しています。

- ①めざす授業（授業における子どもの姿）
- ②児童生徒の実態（児童生徒の強み、課題など）
- ③具体的な取組（授業改善に向けた取組の概要）
- ④学びの意欲を高めるための環境づくり
- ⑤校内体制や関係機関との連携
- ⑥具体的な成果（取組の様子、ワークシートなど）



5. 研究推進校一覧

小学校 ※算数を中心に授業改善

学校名	研究対象教科等
松江市立古江小学校	算数、道徳
出雲市立大津小学校	算数、道徳
江津市立高角小学校	算数、生活
益田市立高津小学校	算数、特活
隠岐の島町立都万小学校	算数、特活

中学校 ※総合的な学習の時間を中心に授業改善

学校名	研究対象教科等
松江市立湖北中学校	総合的な学習の時間、国語、英語
雲南市立木次中学校	総合的な学習の時間、英語
美郷町立邑智中学校	総合的な学習の時間、英語
津和野町立日原中学校	総合的な学習の時間、数学
海士町立海士中学校	総合的な学習の時間、数学

小学校

松江市立 古江小学校

P5～6

めざす授業（授業における子どもの姿）

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく解決していこうとする子ども
- ・関わり合いながら、他者のよさや成長、変容を認め合い、共に伸びていこうとする子ども

取組のキーワード

子どもが自分の考えを表現し、伝え合うことができるような教師のコメント力

出雲市立 大津小学校

P7～8

めざす授業（授業における子どもの姿）

- ・必要感・切実感をもって課題にのぞみ、見通しをもって自力解決に取り組もうとする。
- ・他者と考えを交流しながら学び合い、見方・考え方を深めながら、追究し続けようとする。

取組のキーワード

子どもの考えを引き出し、表現させる教師の発問、コーディネート

江津市立 高角小学校

P9～10

めざす授業（授業における子どもの姿）

- 自分のもつ知識や技能をできる限り（最大限）使って、自分の考えや思いを表現しようとする。
- ・友だちと考えを交流しながら、課題を深く追究しようとする。
 - ・自分の学びを次の学習やこれからの生活に生かしたり、新たなことに挑戦したりしようとする。

取組のキーワード

子どもが考えをもち、表現する課題設定の工夫

益田市立 高津小学校

P11～12

めざす授業（授業における子どもの姿）

- 子ども一人一人の学びを保障する授業
- ・もっと学びたいと思う子ども
 - ・自分の考えも他者の考えも大切に子ども

取組のキーワード

自他の考えを大切にし、子ども一人一人を認める学級風土

隠岐の島町立 都万小学校

P13～14

めざす授業（授業における子どもの姿）

- 主体的に課題に取り組む子ども
- ・学ぶことに興味や関心を持って取り組もうとする。
 - ・見通しを持って、粘り強く取り組もうとする。
 - ・課題解決のために、様々な方法を考える。
 - ・次につなげたり、実生活と結びつけたりする。
- 伝え合い高め合う子ども
- ・相手に分かりやすく伝えようとする。
 - ・相手の考えを分かろうとして聞くことができる。
 - ・自分の考えと比べ、自分の考えを確かなものにする。
 - ・よりよい解決策を見いだそうとしている。

取組のキーワード

ガイド学習、都万っ子ミーティングを導入した授業モデルの確立

中学校

松江市立 湖北中学校

P15～16

めざす授業（授業における子どもの姿）

- ・自分で目標をもち、レベルアップさせながら、最後まで粘り強く取り組もうとしている。
- ・いろいろな意見や考え方を認めたり、わからない箇所を質問したりし、他者とともに学ぼうとしている。
- ・他者の話をしっかり聞き、自分の言葉でわかりやすく表現しようとしている。

取組のキーワード

探究的な学習の過程の充実、多様な考え方や対話が生まれる課題設定、学びを深めていくための思考の可視化、目標をもって課題に取り組むための自己決定の場の設定

雲南市立 木次中学校

P17～18

めざす授業（授業における子どもの姿）

- 人との関わりの中で、自ら学び考え、主体的に表現できる生徒
- ・これまでに培ったことをもとに、主体的に課題を追究する生徒
 - ・仲間等との対話を大切にし、のびのびと表現できる生徒
 - ・良いものを良いと感じ、美しいものに感動する心をもった生徒

取組のキーワード

地域人材との連携による総合的な学習の時間における工夫、カリキュラム・マネジメント表を活用した教科横断的な視点を意識した指導

美郷町立 邑智中学校

P19～20

めざす授業（授業における子どもの姿）

- ・多様な他者との伝え合いや協働をとおして、課題を追究し、自己の考えを広げ深めている。
- ・習得した知識・技能を活用し、考えるための技法を用いて考えを整理し、必要に応じ ICT を効果的に用いながら、自分の意見を的確に伝え合おうとしている。

取組のキーワード

外部人材との連携による総合的な学習の時間の改善、伝え合う場面の充実のための指導

津和野町立 日原中学校

P21～22

めざす授業（授業における子どもの姿）

- 学習に主体的に取り組む生徒
- ・自分の意見や考えを持っている。
 - ・自分の考えや意見を他者のものと比べたり照らし合わせたりしている。
 - ・他者の考えを踏まえたとえで、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

取組のキーワード

知識構成型ジグソー法を活用した授業改善

海士町立 海士中学校

P23～24

めざす授業（授業における子どもの姿）

- ・持てる知識や技能を最大限に活用し、自己の考えを表現する姿
- ・他者と協働し、課題の解決に向けて粘り強く追究することで、自己の学びを深める姿

取組のキーワード

地域人材との連携による総合的な学習の時間における工夫、主体的に向き合いやすい課題の設定、協働する場の支援

古江小のめざす授業

- 自ら課題を見つけ、自ら学び、
- 関わり合いながら、他者のよさ

(授業における子どもの姿)

自ら考え、よりよく解決していこうとする子ども。
や成長、変容を認め合い、共に伸びていこうとする子ども。

児童の実態

児童の強み

算：8割近くの子どもが、算数が好き・よくわかと答えている。
道：高学年になるにつれて、話し合い活動に対して肯定的な答えをしている。

児童の課題

算：苦手意識をもっている子どもは、図や言葉、文章での表現の仕方に困難さを感じている。
道：理解の難しい子どもは、場面把握に困難さを感じている。

教職員の思い

自ら学び、自ら考え、よりよく解決していこうとする子どもに育ってほしい。

地域の思い

地域を大切に作る子どもに育ってほしい。

教師と児童のコメント力

○児童が主体的に取り組むため

- ・自己内対話中に、励ます・価値づけるコメントを大切にする。

○児童がお互いの考えを深めるため

- ・全体対話中に、深める・広げるコメントを大切にする。

○児童のコメント力を高める

- ・教師がコメントする姿を子どもにフィードバックし、子ども同士の対話力を高める。

体制・連携等

授業づくりのための校内体制

- ・研究組織、年間計画づくり
- ・アンケートによる実態把握
- ・全校で統一した取組（チャンネル3、対話スキル、学び合いの言葉）

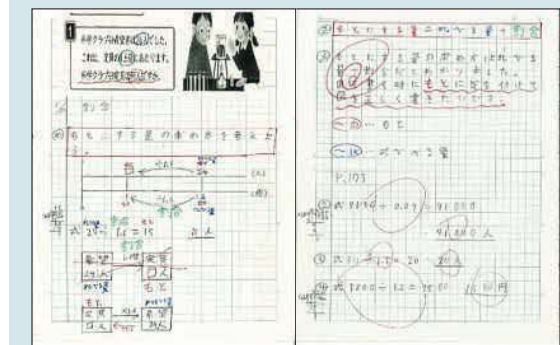
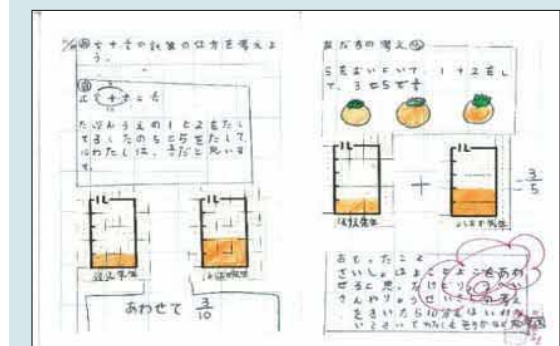
校種間連携

- ・学園内での相互の授業公開

各関係機関との連携

- ・継続型訪問指導での研修
- ・松江教育事務所 指導主事

思考の可視化(子どものノート)



具体的 な取組

コメント力

- ★励ます、価値づける
- ★深める、広げる

かためる

- めあてについて振り返る。
- 学び合いの良さを実感する。

自己内対話②

思考の可視化

- ◆まとめと振り返り

伝える

- ★確認する、補足する
- ★比較する
- ★広げる
- ★ゆさぶる

全体対話

- 互いの考えを伝え
- よりよい方法や新
- 自分の考えを見つ

- 合う、受け止め合う。たな考えを共に創る。め直し、再構築する。

- ◆構造的な板書・考えや立場の明示
- ◆ICTの活用

一人一人が考えをもつ

- ★受け止める、共感する
- ★自信をもたせる
- ★安心させる

- 課題解決に向けて
- 自分の考えをノー
- 友だちの考えへの

自己内対話①

- 意欲をもつ。ト等に表現する。関心をもつ。

- ◆課題、自分と向き合う時間
- ◆ノート指導

学びへの意欲が高まる環

- ・温かい人間関係づくり
- ・学習の
- ・豊かに伝え合うためのスキルづくり

境づくり

- 約束づくり
- ・基礎的な学力の育成

指導案等を載せています。



育てたい子どもの姿

- 必要感・切実感をもって課題に
- 他者と考えを交流しながら学び

「問いをもち、追究し続ける子ども」

のぞみ、見通しをもって自力解決に取り組もうとする。
合い、見方・考え方を深めながら、追究し続けようとする。

児童の実態

強み

- ・学習課題に対して前向きに取り組もうとする。
- ・友達と協働的に学び合うことの楽しさを知っている。
- ・学んだことを活用していくことの良さを理解している。

課題

- ・自分の「問い」をもち続け学んだことを関連づけながら生活を豊かなものにしていこうとする力を育む必要がある。
- ・学力的な個人差が大きい。

教職員の思い

子どもの心を揺さぶる発問や問い返しを工夫することで、「追究し続ける力」を養っていきたい。
「子どもの声でつくる授業」を展開していききたい。

問いをもつために

◇子どもの心をゆさぶる発問

算数「あれ？今までと違うぞ？」
道徳「このままでいいのかな？」



全体の問い⇒「めあて」の設定

◇授業のめあてと振り返りの整合性

授業構想シート・授業展開モデル
評価シート等の活用

指導案等を載せています。



具体的な

手立て・取組

算数科

学びを深める

- 追究し続けるための問い返し
- 学びをふり返り、変容に気づけるような言葉かけ（メタ認知）
- 次時に生かす（つながる）生活に生かす・他教科に生かすような言葉かけ

追究し続ける

- 追究し続けるための問い返し
- 自己をふり返り、変容に気づけるような言葉かけ（未来につながるふり返り）
- 次時に生かす（つながる）生活に生かす・他教科に生かすような言葉かけ

新たな問いを生む働きかけ

学び合い

子どもの声でつくる

- ◆ねらいに向かう学び合いの活性化
- ◆問い返し「それってどういうこと？」
- ◆ゆさぶり「本当に？」
- ◆つなぐ「続きが（別の言葉で）言える？」
- ◆確認「自分の言葉で説明できる？」
- ◆比較・統合の視点を与える

教師の対話コーディネート

- ◆ねらいに向かう学び合いの活性化
- ◆問い返し「それってどういうこと？」
- ◆ゆさぶり「本当に？」
- ◆つなぐ「同じ立場の人から教えて」
- ◆多面的・多角的な視点を与える
※「キラリワード」参照

考えや思いをもつ

問いをもつ

- 既習内容とのずれを感じる
- 友達の考えと比較し、違いに気づく
- 児童が「あれ？」とつぶやいた理由から全体の問いに広げる

子どもの心を揺さぶる発問

めあての設定

- 既習、生活経験、友達とのずれを感じる
- 生活アンケートでの実態把握
- 児童が「あれ？」とつぶやいた理由から全体の問いに広げる

主体的な学びを支える

学級経営・学力向上策（スキルアップタイム・カリキュラムマネジメント・地域や家庭との

ひと・もの・こと

家庭学習・要約学習・図書館教育 等）
連携（すこやか週間・PTA 活動 等）

体制・連携等

授業改善のための校内体制

- ・研究推進委員会
- ・研究部
- ・授業実践部（算数部会・道徳部会）

連携

- ・島根県教育委員会
- ・出雲教育事務所
- ・出雲市教育委員会

追究し続けるために

◇新たな問いを生む働きかけ（発問・問い返し・ゆさぶり等）

算数

子どもが問いをもち、論理的、統合的、発展的に追究し続けるための言葉かけ

道徳

子どもが問いをもち、本音で語り、多面的・多角的に追究し続けるための言葉かけ



「大津小キラリワード」の活用
「こんな時こんな言葉」の活用

◇効果的な対話を生み出す工夫

教師の対話コーディネート

子どもの言葉をつないでいく

めざす児童像

- 自分のもつ知識や技能をできる限
- 友だちと考えを交流しながら、課題
- 自分の学びを次の学習やこれから

り（最大限）使って、自分の考えや思いを表現しようとする。
を深く追究しようとする。
の生活に生かしたり、新たなことに挑戦したりしようとする。

児童の実態

- ・問題の内容や提示方法を工夫することで、児童が課題解決に対する見通しをもつことができるようになってきている。
- ・抵抗なく話し合い活動に取り組める児童が増えてきている。
- ・活動を伴うこと、協力しあって活動を行うことができる。

児童の課題

- ・多面的に追究していくことが難しい児童もいる。
- ・個人差が大きい。
- ・自分の言葉で説明することが難しい児童もいる。

教職員の思い

- ・生きていく力を身に付けてほしい。
- ・新たなことに挑戦してほしい。
- ・考えや思いを伝える子になってほしい

地域の思い

- ・地域の活性化

算数科

◎児童が自分の考えをもち、表現するための工夫

- 問題設定
 - ・生活場面に即した問題
 - ・他教科と関連のある問題
- 課題設定
 - ・前時とのつながりを生かす
 - ・児童の思考と「ずれ」を生かす
 - ・解決の見通しがもてる
 - ・児童の思考に沿っためあてづくり

◎考えを交流し合い、学びを深めるための工夫

- 小集団での話し合い
 - ・話し合いの目的の明確化
 - ・理解の確認
 - ・自力解決の確認
 - ・相互協力による問題解決 など
- 習熟度別学習
- 教師の関わり方
 - ・児童をつなぐ声かけ
 - ・児童の思考をゆさぶる声かけ
 - ・児童の気付きに対する価値づけ

【手立ての1つとして】

- ICT活用
 - ・ノートの共有
 - ・発表ツール
 - ・問題場面の把握（写真、動画）

生活科

◎児童が自分の考えをもち、表現するための工夫

- 課題設定
 - ・題材との出合わせ方
 - ・他教科との関連
 - ・単元配列表の活用
 - ・体験活動と表現活動のくり返し
 - ・気付きの質の高まりが見えるくり返し

◎考えを交流し合い、学びを深めるための工夫

- 小集団やペアでの話し合い
 - ・話し合いのゴールを示す
 - ・同じ目的でのグループ活動
 - ・個々の気付きの共有
- 教師の関わり方
 - ・児童の思考をゆさぶる声かけ
 - ・児童の気付きに対する価値づけ
 - ・身の回りの事象を分類・比較・関連できるとに気付く場面をつくる

【手立ての1つとして】

- ICT活用
 - ・ノートの共有
 - ・発表ツール
 - ・問題場面の把握（写真、動画）

主体的・対話的で深い学び

体制・連携等 校内体制

- ・研究部を中心に
- ・学年部（低中高）
- ・一人年間一授業

市教育研究会

- ・校種間連携
- ・市教育研究会を通して中学校と一緒に研修を行う。

各関係機関との連携

- ・市教育研究会
- ・教育委員会
- ・大学教員の助言等

自分の思いや考えを表現している姿



○学びへの意欲が高

- ・教室環境の整備（既習事項の掲示など）
- ・算数科コーナー（おもしろ算数問題、
- ・生活科コーナー（植物の成長記録、

まる環境づくり

- ど）
- チャレンジ問題など）
- 発見カードなどの成果物）

指導案等を載せています。



高津小のめざす授業（授業における子どもの姿）
子ども一人一人の学びを保障する授業
○もっと学びたいと思う子ども。

る子どもの姿）
学びを保障する授業
○自分の考えも他者の考えも大切にする子ども。

児童の実態

児童の強み

明るく、前向きで元気な児童が多い。
あいさつがよくできる。

児童の課題

「算数が好き」「話し合うことが好き」という児童が少ない。

教職員の思い

失敗を恐れない、たくましい子になってほしい。

地域の思い

高津小の子を大切にしたい。

具体的成果①

主体的に学ぶ児童の姿

- 授業後に教師に質問に来る児童
- 授業の続きを自主的に家庭学習する児童
- もっと学習したいと発言する児童



指導案等を載せています。



具体的な取組

算数科

- 学んだことを言語化させる。
(働かせた見方・考え方、統合・発展的な振り返り)
- ジャンプ課題

深める

- 課題を解な疑問やける。
- 決し、新たな課題を見つける。

特別活動

- 調整・同意・合意形成を価値付ける。
- 実行・実践の場を設定する。
- 実践の振り返りと分析をする。

伝える合う

- ペア・グループ学習を設定する。
- 多様な考え方を予想する。
- 新しい気づきを追記させる。

- 考えを広げ、整理する。

- 理由をつけて発言させる。
- 困る児童がいらないか確認する。
- 提案理由を再度確認する。

一人考え一人がをもつ

- 課題や問いかけを焦点化し、明確にする。
- 自分の考えたことを表現させる。

- 同じ土俵に乗る。

- 目的のある課題と提案理由を提示する。
- 話し合うことを明確にする。
- 学級力アンケート、アクションカード等児童の思考の手立てを示す。

体制・連携等

高津中学校との合同研修会
(学級力向上研修会)

保幼小連携

外部講師招聘

(齊藤一弥氏、佐藤雅彰氏)

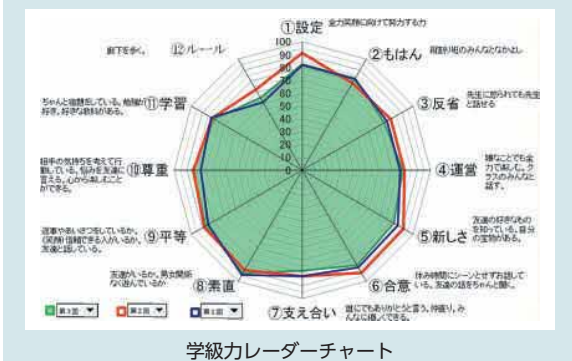
具体的成果②

(1) 児童会による自治的な取組

- 各委員会の活動
- 縦割り班活動
(フレンドリーパークなど)

(2) 学級力向上の取組

- 学級力向上アンケートの結果の課題解決に向けて学級会で話し合い、実践、振り返りを繰り返し、学級力が向上した。



研究推進のための土台作り

体制・連携等

主任者会・専門部主任者会
学年部会・専門部会
特別支援教育部

一人一人を認める学級風土

都万小のめざす授業（授業における子どもの姿）

主体的に課題に取り組む子ども

- 学ぶことに興味や関心を持って取り組もうとする。
- 見通しを持って、粘り強く取り組もうとする。
- 課題解決のために、様々な方法を考へたりする。
- 次につなげたり、実生活と結びつけ

る子どもの姿）

- 組もうとする。
- うとする。
- える。
- たりする。

伝え合い
 高め合う子ども

- 相手に分かりやすく伝えようとする。
- 相手の考えを分かろうとして聞くことができる。
- 自分の考えと比べ、自分の考えを確かなものにする。
- よりよい解決策を見出そうとしている。

児童の実態

児童の強み

- ・明るくて素直。
- ・男女仲もよく、だれとでも力を合わせて活動に取り組むことができる。
- ・何事にも一生懸命取り組むことができる。

児童の課題

- ・難しいことにも粘り強く取り組む。
- ・自分の言葉で書いたり、相手に分かるように伝えたりする。
- ・考えを交流させながら、学びを深める。

教職員の思い・地域の思い

- ・自分で考えて、主体的に動けるようになってほしい。
- ・粘り強く取り組み、何事もやり切ってほしい。
- ・自分や身の周りの人を大切にしてほしい。
- ・しっかり挨拶のできる子になってほしい。

具体的成果①

ガイド学習を導入することで、自分たちで主体的に課題解決しようとする姿が見られるようになった。また、自分の考えを進んで友達に説明したり、発表したりする力も高まりつつある。児童が主体となり授業を進めることから、支援が必要な児童に教師が適切に関わることができ、一人一人が自信を持って学習に取り組んでいる。



指導案等を載せています。

算数科

具体的

な取組

学級活動

① 目指す姿を明確にする

- 系統表の作成

- 系統表の作成

② 授業モデルを確立する

- ガイド学習の導入
- 教師の出番の明確化
- 評価の視点

- 都万っ子ミーティングの設定(議題選定)
- 教師の出番の明確化
- 評価の視点

③ 子ども同士が関わりながら考えを深めていく手立てを採る

- 見通しの持たせ方
- ペア学習
- 児童の考えの可視化
 (ホワイトボードの活用)
- 児童による考え方の分類
- まとめの時間の持ち方

- 【事前】
 - 議題提案カードで視点を示す
 - 議題選定カードの活用
- 【本時】
 - 作戦カード、お助け言葉集の活用
 - プレゼンボードの活用
 - 話し合いの視点を示す
- 【事後】
 - 振り返りカードの活用
 - 学級のあゆみの掲示

土台づくり

- ①安心して自分を出せる環境づくり（朝のス行事振り返りシート、いいところ見つけ）
- ②主体的に学ぶための基礎学力・学びの習慣
 自学ノートの異学年交流や展示）
- ③色々な人と関わる力を育む集団づくり（縦

- ピーチ、学級の足跡掲示、生活ノートの活用、
- づくり（漢字計算大会、家庭学習の手引き、
- 割り班活動、児童会活動）

体制・連携等

校内体制

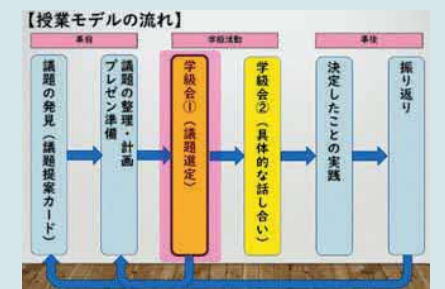
- ・研究推進委員会
- ・授業づくり部
- ・児童の実態調査部
- ・土台づくり部

各関係機関との連携

- ・指導主事や外部講師を招いての校内研修
- ・研究の進め方や課題の共有化
- ・指導主事と連携した授業づくり

具体的成果②

都万っ子ミーティング（議題選定の学級会）を設定することで、自分たちの学級をよりよくしようとする思いや議題を見つける目が育っている。



具体的成果③

評価の視点（①見方・考え方②主体的な学習態度）を明確にして毎時間よかったところを伝えたり、視点に沿って振り返りをさせたりしている。そうすることで、算数では児童の主体性が発揮され、数学的な見方・考え方を働かせる力が高まりつつある。また、教師の指導事項が整理され、指導と評価の一体化を図ることができた。学級活動では、より具体的に深い学びにつながる振り返りができるようになった。

令和3年度 松江市立 湖北中学校

湖北中のめざす授業（授業

- いろいろな意見や考え方を認めたり、わからない箇所を質問したりし、他者とともに学ぼうとしている

つなげる協働力

における子どもの姿)

- 自分で目標をもち、レベルアップさせながら、最後まで粘り強く取り組もうとしている

へこたれない解決力

- 他者の話をしっかり聞き、自分の言葉でわかりやすく表現しようとしている

たくましい表現力

※令和3年度は「つなげる協働力」と「へこたれない解決力」に焦点化して実践を行った。

※令和3年度は「つなげる協働力」と「へこたれない解決力」に焦点化して実践を行った。

※令和3年度は「つなげる協働力」と「へこたれない解決力」に焦点化して実践を行った。

生徒の実態

生徒の強み

- ・素直で穏やか
- ・真面目に物事に取り組む
- ・少人数でまとまりやすい
- ・愛校心がある
- ・地域ボランティアに積極的である

生徒の課題

- ・人間関係や環境の変化につまづきがあると克服しにくい
- ・少人数の固定された人間関係でコミュニケーションが未熟
- ・自信がなく、自己表現が苦手
- ・学習意欲があまり高くない

教職員の思い・地域の思い

☆社会の中で自立した生活ができる人になってほしい

- ・思いやりの心をもった優しい人になってほしい
- ・よりよい自分をめざし努力できる人になってほしい
- ・集団の中で協力して取り組める人になってほしい

具体的成果①

思考を可視化した学び合い



教科等

○生徒の姿を通して具体的に授業分析を行い、授業改善に繋げる

○多様な考え方や対話が生まれる課題設定

- ・ジグソー学習を取り入れた古典学習（国語）
- ・電子黒板を使って動点でつくる面積の変化を捉える（数学）

○自他の考えを比較・関連付けをしながら学びを深めていくための思考の可視化

- ・思考ツールを用いたワークシートを作成する（全教科）
- ・付箋を使用して思考の確認を話し合いに生かす（全教科）
- ・まなボードを使って話し合い活動をする（理科、数学、総合的な学習）

総合的な探究の

学習の時間サイクル

○3年生：地域を再考する
1年生からの学習を生自分たちができること

- ・課題解決に向けて多角的に「まなボード」を取り入れて話し合ったりする（自他の考えを比較・関連付けながら学びを深める）

○2年生：地域の魅力を地域の名産品の販売活動を生かす

- ・販売活動をする際に名産品の魅力を伝える方法を話し合う（多様な対話が生まれる課題設定）

○1年生：地域を知る
テーマを決めて調べた人への取材活動をした力を知る

- ・レーダーチャートを用いて分析をする（思考の可視化）
- ・まなボードや付箋を用いて話し合いを行う（自他の考えを比較・関連付けながら学びを深める）

る
かし、地域の課題を知りを行う

的な視点から考えられるを使ったり、「ワールドカフェ方式」を取り入れて話し合ったりする関連付けながら学びを深める

発信する
動を行ったり街頭インタビューをしたりする

産品の魅力が伝わり、多える方法を話し合う（多様な対話が生まれる課題設定）

り、地域の名産品を扱うりして、地域の良さや魅力を伝える

いて分析をする（思考の可視化）
いて話し合いを行う（自他の考えを比較・関連付けながら学びを深める）

教科等

○生徒の姿を通して具体的に授業分析を行い、授業改善に繋げる

○生徒自らが目標をもって課題に取り組むための自己決定の場や選択の場の設定

- ・ルーブリックを生徒がつくり紹介文や批評文を書く（国語）
- ・学習課題を生徒がつくる（理科）
- ・「10年後の自分へ」というゴールを決めメッセージを書く（英語）

○自他の考えを比較・関連付けをしながら学びを深めていくための思考の可視化

- ・タブレットを使って自分の姿を撮影し正しい動きと比べる（保健体育）
- ・試作品から課題をみつけて作品制作に生かす（技術）
- ・化学変化をモデルを用いて考える（理科）

体制・連携等

プロジェクト総括チーム

- ・校長、教頭、研究主任、副主任
→研究主題設定、研究方針の方向決めなど

プロジェクト推進チーム

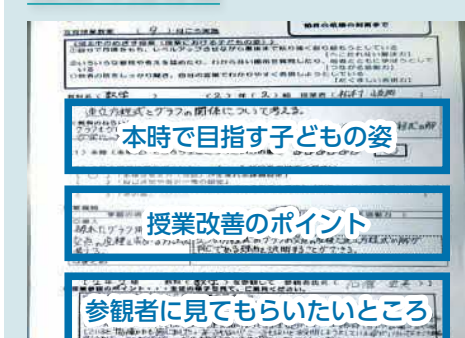
- ・研究部、教務主任
→研究推進、公開授業企画・運営、アンケートの作成、結果の整理と分析など

プロジェクト実行チーム

- ・①授業改善班…全教職員
→年1回以上の互見授業の実施、研究の視点に沿った授業効果の検討など
- ・②総合的な学習の時間班…各学年総合担当を中心に全教職員
→指導案検討、総合的な学習の時間の学習指導計画の改善、実行など

具体的成果②

研究の取組を焦点化した互見授業の指導案



○総合的な学習の時間を軸に、「湖北中生につけたい力」

- ・各教科で、「湖北中生につけたい力」の育成の中心となる
- ・研究授業や互見授業では、「湖北中生につけたい力」を意識した授業実践を積み重ねる。

を意識して各教科をつないだカリキュラムデザインの作成

単元を焦点化する。→互見授業や研究授業の計画指導案に明記し、教科のねらいの達成と共に「つけたい力」を

指導案等を載せています。



人との関わりの中で、自ら学び考
～ ICT 機器を活用した主体的・

え、主体的に表現できる生徒の育成
対話的で深い学びを通して～

授業における
めざす生徒の姿

●これまでに培ったことを
主体的に課題を追究する

もとの、
生徒

●仲間等との対話を大切にし、
のびのびと表現できる生徒

●良いものを良いと感じ、美しい
ものに感動する心をもった生徒

生徒の実態

生徒の強み

- 友だちとの対話を好む
- 学んだことを他の学習に生かそうとする
- ICT 機器を活用する学習を好む
- ふるさと学習を好む（地域に温かく見守られている）
- 学習規律が確立されている
- 学校行事に意欲的に取り組む

生徒の弱み

- 基礎・基本が定着しにくい
- 知識・技能を活用し、多面的・多角的に思考することが苦手
- 粘り強く学習に取り組むことが苦手
- 相手意識をもってコミュニケーションすることが苦手

生徒への思い

教職員の思い

- 確実に知識・技能を身に付ける
- 話し合い活動を通して、考えを広めたり深めたりする
- 自己を調整し、粘り強く取り組む

地域の思い

- 助け合って、明るく元気に過ごす
- 地域に関心をもち、行事に参加する
- 将来、地域貢献しようとする

具体的成果①

地域の方（ゲストティーチャー）の協働的な関わり

総合的な学習の時間の課題設定場面において、ゲストティーチャーから助言をいただき、新たな視点に気づき、課題を再構築できたことで、探究的な学習のサイクルを回すことができた。また、課題解決に向けて前向きに考えようとする生徒の姿が見られた。

総合的な学習の時間

【1年】わくわく未来予想図

～将来どんな雲南市だったら
わくわく生活できるのか～

【2年】将来の夢に向けて

～働く人から学び、
将来への見通しをもとう～

【3年】職場体験学習

～地域で働く人々に学び、
新しい自分を創り出そう～

◆様々な課題を発見し、分析し、計画を立てて解決しようとする課題解決的な学習を展開する。（探究のサイクルを回す）

- ・自他の考えを比べたり関連付けたりしながら学びを深める思考ツールを活用する。
- ・情報収集、情報発信をするために ICT 機器を活用する。
- ・地域の方等との協働により、新たな課題追究に向けた再構築を実施する。

◆カリキュラム・マネジメント

- ・3つの資質・能力（「課題対応能力」「伝」「カリキュラム・マネジメント表」を作
- ・「カリキュラム・マネジメント表」を

教科等（英語）

【1年】ふるさと雲南市を PR しよう

A Japanese Summer Festival

【2年】将来の夢について伝えよう

A Message to Myself in the Future

【3年】職場体験を報告しよう

My Activity Report

◆質の高い言語活動を行う。

- ・主体的に学ぶことができる単元ゴールを設定する。
- ・伝え合う力を高めるために ICT 機器を活用する。
- ・授業ゴールに向かって、言語活動と中間評価を繰り返す。

を意識した単元を構想する。

え合う力」「情報活用能力」を視点にして成する。
もとの、教科横断的な単元を作成実践する。

体制・連携等

授業づくりのための校内体制

- 校務分掌の4組織を生かした体制
 - ・研究部……研究計画、研究協議実施等
 - ・教務部……ICT 機器の活用方法等
 - ・生徒指導部…生活規律、学習規律等
 - ・総務部……校内環境整備、掲示物等
- 一人一授業による検証
指導案作成、研究協議、レポート提出

連携

- 木次中学校区4小学校との連携
 - ・連携して育てたい3つの資質・能力
 - ・木次中学校区版情報活用能力系統表
 - ・公開授業・研究協議の案内・参加
- 校区内の保育所、こども園、幼稚園、小学校、中学校の連携
 - ・「木次の子どもを育てる会」
- 市教研における市内小中学校との連携
- SC や各種関係機関との連携
- 地域自主組織や豊富な地域人材の方々（GT 等）との交流

具体的成果②

教科横断的な視点を意識した指導

学年部会や教科部会で、「カリキュラム・マネジメント表」を検討、作成、見直したことで、各教科等の単元で育みたい資質・能力のつながりが見えてきて、指導に生かすことができた。本マップでは、総合的な学習の時間と英語についての教科横断的な指導（他教科での学びをいかす指導）について具体的に示している。

指導案等を載せています。



※ EIOS に掲載しています。

自らの思いや考えを仲間
～ 伝え合う力を高め 深い

とともに深め合い夢に向かって歩む生徒の育成
学びに導く 授業のあり方の研究を通して ～

生徒の実態 (◎強み ◆弱み)

- ◎温かなふるさとで育まれたおおらかな人間性。
- ◎恵まれた ICT 環境での学習。
- ◆自分のために学ぶという意識が薄い。
- ◆話す・伝えることが苦手。
- ◆多様な他者との協働の機会が少ない。

教職員・保護者・地域の思い

- ・豊かな人生を送るための学力をつけて欲しい。
- ・ふるさとを愛し、人を大切にしたい。

めざす授業 (授業に

- 多様な他者との伝え合いや協働をとえを広げ深めている。
- 習得した知識・技能を活用し、考えし、必要に応じ ICT を効果的に用い合おうとしている。

おける生徒の姿)

おして、課題を追究し、自己の考
るための技法を用いて考えを整理
ながら、自分の意見を的確に伝え

研究体制

- ・週1回の研究推進委員会
- ・研究推進委員会の議事内容の回覧
- ・朝礼時における ICT を活用した研究内容の共有化

各関係機関との連携

- ・美郷町教育委員会 (地域学校支援コーディネーター、ICT 支援員等)
- ・町内各公民館・町内隣保館、町人権・同和教育推進連絡協議会
- ・島根大学 (みさと学習アドバイザー、授業や職員研修の講師)

具体的な取組

生徒の目的意識・

伝え合うための課題の工夫

- 生徒が目的意識をもって「伝え合い」ができるよう、単元や授業の導入では、学習課題を明確に提示する。
- お互いに興味をもって伝えたいものや、多面的・多角的な視点のあるもの、試行錯誤が必要なもの、答えが一つでないもの等、生徒が追究する課題や、教材を工夫する。

伝え合う場面の充実

- 「伝え合う」場面では、自他の思考を可視化できるよう「要約する」等の考えるための技法 (思考ツール) や、タブレット端末を積極的、かつ、効果的に活用できるようにする。

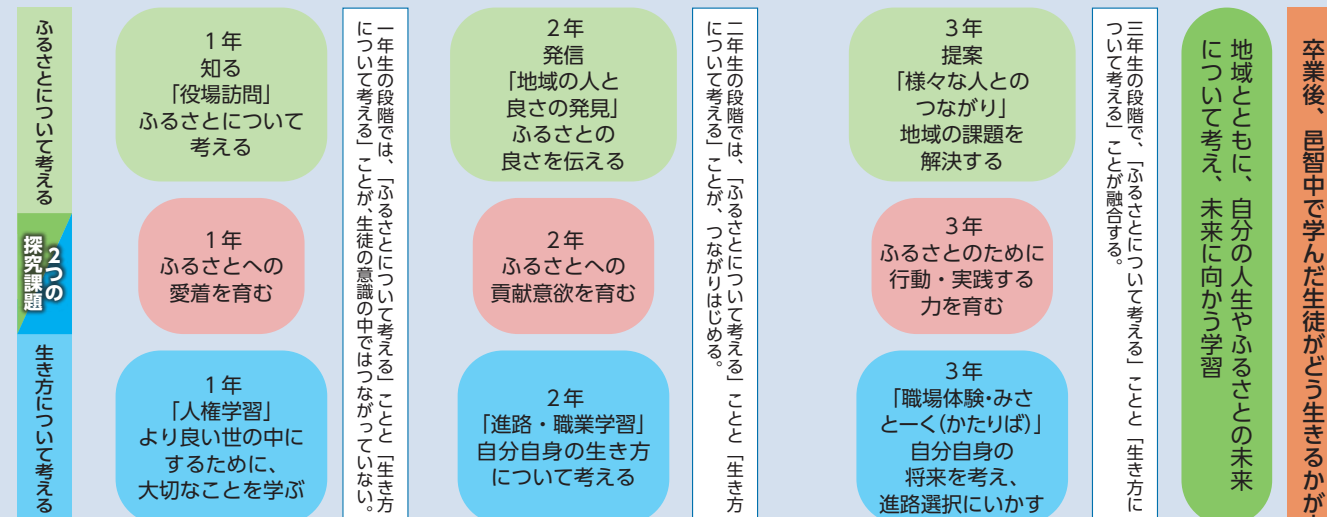
改善につなげる伝え合う場面の評価

- 「伝え合う」場面では、伝える側、受けとめる側の生徒の姿を見取り、授業中の評価言・価値付け、ワークシート等へのコメントで、生徒の学習改善につなげるとともに教師の指導改善に生かす。

総合的な学習の時間の充実

～「教科

等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸」として、より一層の充実を図る～



三年間の縦・横・ナナメの様々な学びにより、生徒の考え方や思いが 少しずつ変化 (深化) していく

- 「伝え合う」場面では、質の高い「伝え合い」る側の生徒にも、伝える側の課題意識が明確とでなく内容の充実につながる改善のアドバイス

- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・技法や ICT を効果的に活用し、伝え合いを通う単元計画を工夫する。

となるようにするため、受けとめるよりよい質問や、伝え方だけができるよう支援する。

表現」の各場面で、考えるためのして生徒が主体的に取り組めるよ

- 「他者と協働して主体的に取り組む学習活動」の充実を図る。
- ・地域の方 (住民) に加え、地域外の方 (大学生) とも協働
- ・地域学校支援コーディネーターとの綿密な連携
- ・授業で協働する住民や大学生との事前の打合せと事後の振り返りの充実 (育成を目指す資質・能力の共有と授業改善)

基盤となる取組 (今まで取り組んできた活動の継続と充実)

- ・朝学習の時間を活用した要約学習
- ・様々な場面での ICT の積極的活用
- ・UDに基づく授業づくり
- ・いのちがやき委員会 (進路保障の取組)
- ・家庭学習の充実
- ・集団づくり



タブレットの付箋アプリで自他の思考を可視化して「伝え合い」

指導案等を載せています。



日原中のめざす授業（授業における学習に主体的に取り組む生徒

- ・自分の意見や考えを持っている
- ・自分の考えを他者の考えを踏まえたうえで、自分の考

る子どもの姿)

の考えや意見を他者のものと比べたり照らし合わせたりしている
えを広げたり深めたりしようとしている

生徒の実態

生徒の強み

- ・素直
- ・地域を気持ちが強い
- ・系統的なふるさと学習を積み重ねてきている

生徒の課題

- ・学習への目的意識が低い
- ・他者の考えを踏まえて、自分の考えを深めることがうまくできていない
- ・話を深めることがうまくできない

教職員の思い

- ・自分の思いを語り、他者と協働して学んでほしい

地域の思い

- ・大人になっても自ら学び続ける人であってほしい

具体的成果①

全教科・領域で話し合う場面を設定したことで、生徒が協働的な学びのよさを体感



指導案等を載せています。



具体的な取組

総合的な学習の時間

教師のてだて

ここまでの学びを今後の自身の生き方や、自分にできることへの考えへと高めさせ、実践の意欲につなげさせる。

職場体験学習

つなげる

考えを広げ、
(新たな学び

深め、活用させる
への意欲づけ)

各教科等

教師のてだて

学んだことを実践させたり、次の課題へとつないだりする。

高める

新たに知り得た情報や体験を元に、他者の考えや他のこととらと比較するなどして高めさせる。

トークフォークダンス

自分の考えや
する。他者の
較したり、再
の思いや考え

思いを他者へ伝え、共有
意見や考え方に触れ、比
考したりすることで自分
を深化させる。

自分とは異なる考え
方や意見に出会わ
せ、自分のものと比
較、深化させる。

出会う

地域の魅力や人々の生き方、課題等についての情報を提示し、学びへの意欲を刺激する。自分の生活と関連付けさせることで「自分ごと」として考えさせる。

自分を知るワーク

新しい情報と
や技術を身に
の考えを持っ
体験と結び付
れからの学び

出会うことで新たな知識
つける。新しく自分なり
たり、自身のこれまでの
けたりする。それらをこ
のきっかけにする。

新たな情報や解法を
提示し、身につけさ
せる。既習事項と比
較させたり、深化さ
せたりすることで学
びの点と点とをつな
ぎ、線にしていく。

学びのための環境づくり

自学ノート、マイプランニングノート、メディ
きらびかプロジェクト、学習会

アコントロールウィーク、

体制・連携等

校内体制

- ・CoREF 講師を招聘した研修
- ・県内外研修会への参加
- ・全教科での授業公開、協議

各関係機関との連携

- ・教育魅力化コーディネーター
- ・公民館
- ・HAN-KOH（町営塾）

具体的成果②

生徒の思考の変容に焦点を置いた研究協議

- ・授業者の意図を事前に共有（授業前に説明）
- ・生徒の変容が見られた(見られなかった)のはなぜなのかを、生徒の学ぶ姿から検証

具体的成果③

考え方の変容が見えるワークシートを活用することで生徒も教員も学びの広がりを確認

ワークシート 「津和野町の魅力を伝えることのできる商品は何だろう？」	
1位	2位
①学習前の自分の考え	
②ジグソー活動で 情報を得たこと	
③クロストークで得たこと	
④学習後の自分の考え	

海士中の授業でめざす
○持てる知識や技能を最大限に
○他者と協働し、課題の解決に

生徒の姿
活用し、自己の考えを表現する姿。
向けて粘り強く追究することで、自己の学びを深める姿。

生徒の実態

生徒の強み

- ・決められたことにまじめに取り組むことができる。
- ・グループ活動等において相手の意見をくみ取ることができる。
- ・地域の方と協働することができる。

生徒の課題

- ・あらゆる活動において受け身である。
- ・自分を表現できない。
- ・向上心に欠ける。

教職員の思い

- ・自分の考え持ってほしい。
- ・計画性を持ってほしい。
- ・主体的に行動してほしい。

地域の思い

- ・地域を好きでいてほしい。
- ・生徒と協働したい。

具体的成果① ICT の活用

ロイロノートを活用することで、考えや情報の共有・整理をスムーズにすることができ、それが十分な対話の時間を確保することにつながり、学びをより深めることができた。

具体的成果② 地域の方との協働 (本物との出会い)

総合的な学習の時間において、地域の事業所の方に各事業所のミッション（課題）を具体的に示し関わっていただくことで、生徒が主体的に課題に向き合い解決しようとする姿につながった。

具体的 な取組

総合的な学習の時間

振り返り・
考えの更新

まとめ・表現

整理・分析

情報の収集

課題の設定

主体的な学びを促す支援

- ・生徒の興味関心を適切に把握する。
- ・体験活動等を仕組み、疑問や課題意識を引き出す。

探究サイクル
発展的な線

ルの
り返し

多様な他者
して課題解
時間と場所
友だち・
保護者・
との対話

と協働
決する
の設定
教師
地域の方

・自己評価
ルーブリッ

クの活用

各教科共通

学びを深める

個人思考での支援

- ・課題の再考、あるいは類題を解くなどの場の設定
- ・振り返り表現する時間の確保

全体交流での支援

- ・考えを伝え合う時間と場の設定
- ・板書の構造化
- ・必要な問いかけ

協働して追究する

協働する場の支援

- ・グルーピングの工夫
- ・時間と場の設定
- ・目的の明確化
- ・有効な思考の技法
- ・思考の可視化の工夫

考えを持つ

考えを持たせるための支援

- ・考える時間の確保（前時、家庭学習等の活用）
- ・考えを持っていない生徒への有効で具体的な支援

主体的に向き合いやすい 課題の設定

- ・解決の必要感のある課題
- ・自分ごととして考えることのできる課題
- ・協働して考える価値や意義ある課題

学びへの意欲が高まる環境づく

- ・家庭学習の支援（自学ノートへのコメント、学習相
- ・数学強化週間年間5週間（家庭学習の支援、学習大
- ・掲示の工夫（「総合的な学習の時間」学習の足跡掲示、

り

談、家庭学習時間の調査、掲示）
会の実施）
研究掲示板、グローバル掲示板、教室掲示）

体制・連携等

授業づくりのための校内体制

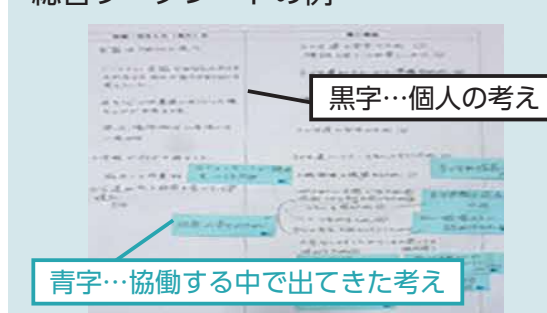
- ・数学授業づくりグループ
- ・総合的な学習の時間授業づくりグループ
- ・学習環境づくりグループ

校種間連携各関係機関との連携

- ・海士町保高連携部会
- ・教育コーディネーター
- ・公民館地区担当
- ・各地区公民館長
- ・町内各事業所

具体的成果③思考の可視化

総合ワークシートの例



具体的成果④掲示の工夫



総合的な学習の時間
を中心に学習の成果
物を掲示した。

指導案等を載せています。





令和4年3月
島根県教育委員会